

フジコーの現状と成長戦略

2014年10月25日(土)
大手町 KDDIホール



株式会社 **フジコー**

東京証券取引所マザーズ【証券番号 2405】

<http://www.fujikoh-net.co.jp/>

1. 会社概要



【会社概要】

FUJIKOH

設立（登記）	1974年2月（創業1972年3月）
本社所在地	東京都台東区駒形二丁目7番5号 前川ビル5階
事業内容	建設系リサイクル事業／食品系リサイクル事業／白蟻解体工事
資本金	4億 7,494万円（2014年6月末現在）
売上高	25億 3,488万円（2014年6月期）
経常利益	2億 9,635万円（2014年6月期）
従業員数	97名（2014年6月現在）
関係会社	(株)一戸フォレストパワー …… バイオマス発電事業 (株)一戸森林資源 …… 発電用燃料チップ製造販売 (株)遊楽ファーム …… 有機農産物の生産販売農作物栽培試験 御所野縄文パワー(株) …… 電力の小売販売

『住まいと環境』を守る

当社では、住宅を木材害虫や衛生害虫から守り、自然界では昆虫類と共存することを理念としました。時代とともに変化し、現在では、里山の保護や廃棄物による環境破壊の防止も追加しております。

**建設系リサイクル事業の経験を生かして
食品系及びバイオマスリサイクル事業の拡大**

**新技術の開発によって、廃棄物を
エネルギー資源として活用する事業に注力**

住宅の害虫防除・白蟻駆除工事からスタート

白蟻の新築工事受注に向け、解体工事を開始

解体工事の廃棄物処理を目的に廃棄物処理業を開始

事業拡大に向け食品リサイクル事業を開始

CO²の削減と適正処理、高収益を目的に発電事業を開始

建設系、食品系、一般廃棄物のリサイクル事業

【事業内容】

■ 建設系リサイクル事業

首都圏近郊の廃棄物処理会社、ハウスメーカー並びに工場、倉庫、ショッピングセンター等からの委託を受け、木くず、紙くず、廃プラスチック類、がれき類等の産業廃棄物及び一般廃棄物を焼却、破碎、リサイクル処理を行っております。発電施設では受入れた木くず等のバイオマス(生物資源)を原料とした発電により、温室効果ガスの削減を推進し、自然エネルギーとして付加価値の高い電力販売を行っております。

■ 食品系リサイクル事業

食品関連事業者等からの委託を受け、リサイクルが可能な食品循環資源である産業廃棄物及び一般廃棄物を、発酵分解による堆肥化、メタン発酵による発電、発酵による液状飼料へのリサイクル処理を行っております。当社が保有する養豚施設において、リサイクル製品である液状資料を利用して、豚の肥育を行っております。再生堆肥の品質向上を目的として、農地での栽培試験及び農作物の生産販売を(株)遊楽ファームにて行っております。

■ 森林発電事業

森林資源である未利用木材、製材所から発生する製材くず等を購入し、自社で保有する燃料化工場(株)一戸森林資源)で、破碎、粒度並びに水分調整を行います。製品化された燃料チップをエネルギー源として、自社で保有する発電施設(株)一戸フォレストパワー)で、自然エネルギー電力の発電を行います。発生した電力は自社のPPS(御所野縄文パワー(株))を通じて、地元の小中学校、公共施設、事業会社へ電力供給を行う事業であります。

■ 白蟻解体工事(白蟻防除・家屋解体工事)

建築関連事業者等からの依頼により、住宅及びアパート等の解体工事、白蟻予防工事の見積調査及び施工を主として行っております。あわせて、リフォーム会社からの依頼により、既存住宅の白蟻防除工事、家屋害虫の駆除工事等を行っております。

【当社の特徴】

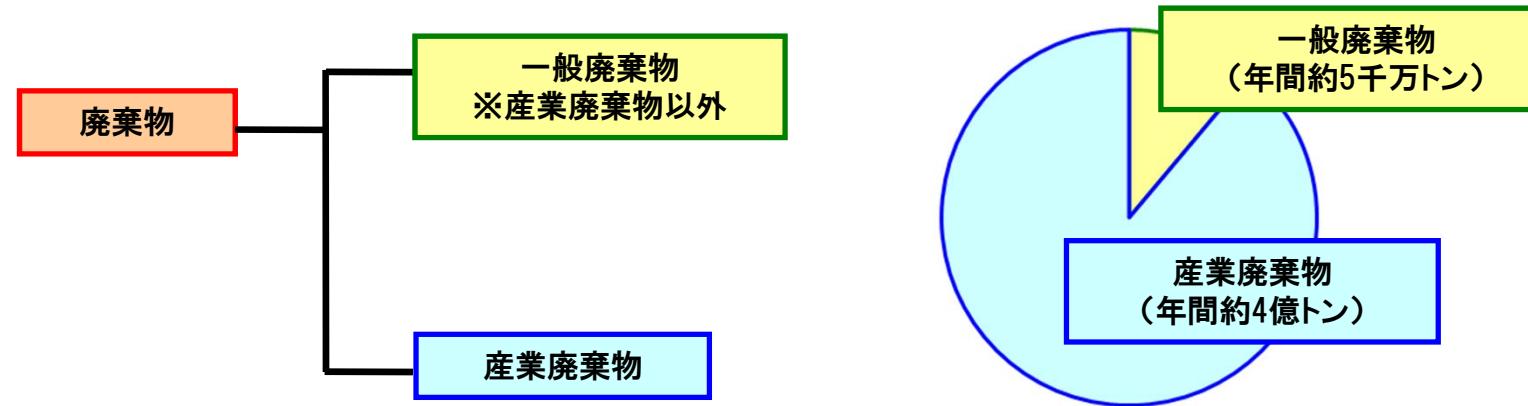
FUJIKOH

- ・許可品目が多い(民間では少ない一般廃棄物処分業許可)
- ・取扱い廃棄物の多様化(建設、食品工場、製造業、飲食等)
- ・創業時から社会的に意義のある事業活動
- ・最新鋭の処理施設と技術導入 「信頼と安心感」
- ・食品リサイクル事業のパイオニア 「農業との連携」
- ・廃棄物処分業としてのバイオマス発電 「収益と環境」

2. 廃棄物処理の概要



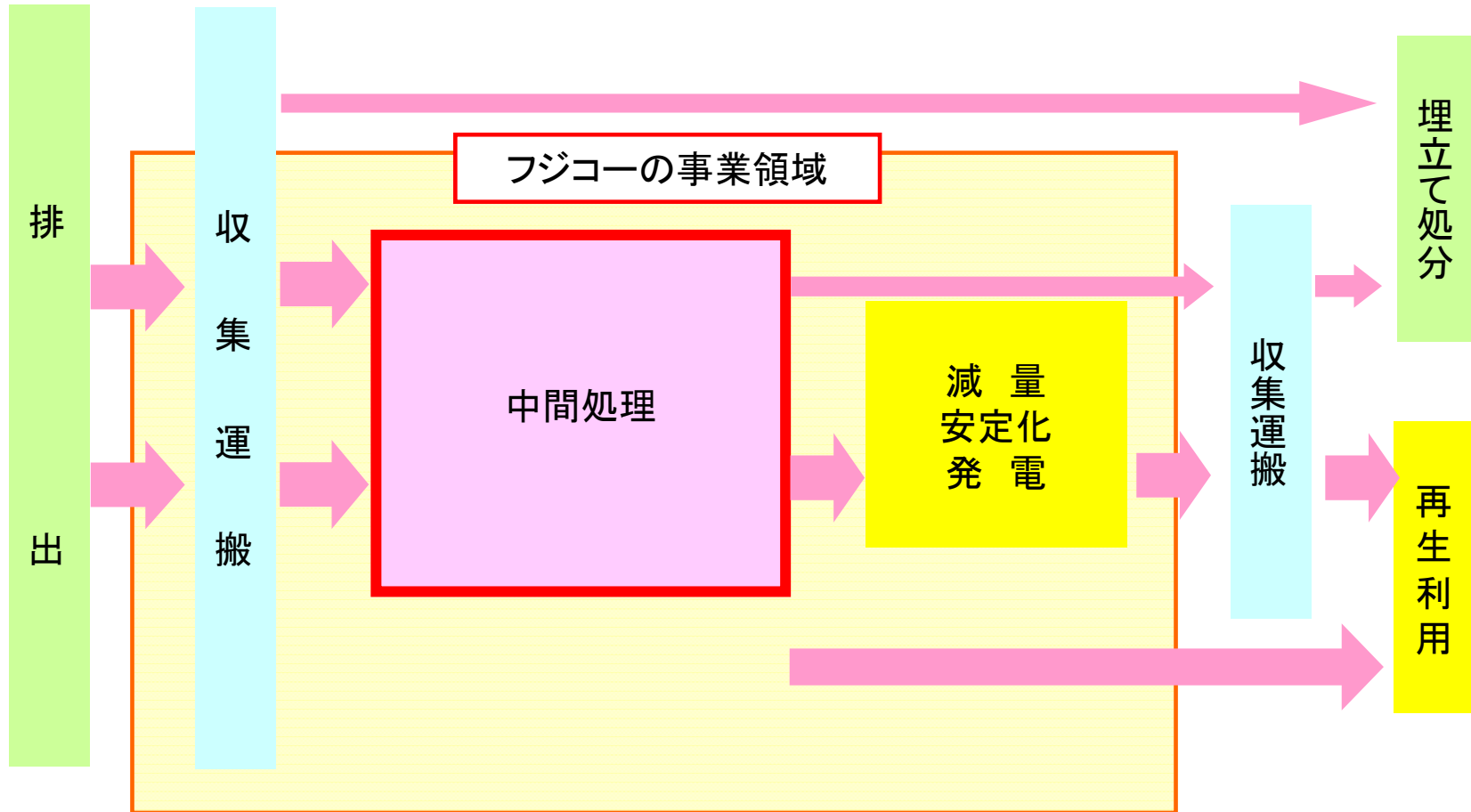
【廃棄物処理業界について】



産業廃棄物

- | | |
|--------------|-------------------------------------|
| 1) 燃え殻 | 12) ゴムくず |
| 2) 汚泥 | 13) 金属くず |
| 3) 廃油 | 14) ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず |
| 4) 廃酸 | 15) 鋳さい |
| 5) 廃アルカリ | 16) がれき類 |
| 6) 廃プラスチック類 | 17) 動物のふん尿 |
| 7) 紙くず | 18) 動物の死体 |
| 8) 木くず | 19) ばいじん類 |
| 9) 繊維くず | 20) 上記19種類の産業廃棄物処理したもの |
| 10) 動植物性残渣 | 21) 1～20の廃棄物、航行廃棄物、携帯廃棄物を除く輸入された廃棄物 |
| 11) 動物系固形不要物 | |

【廃棄物処理の流れ】

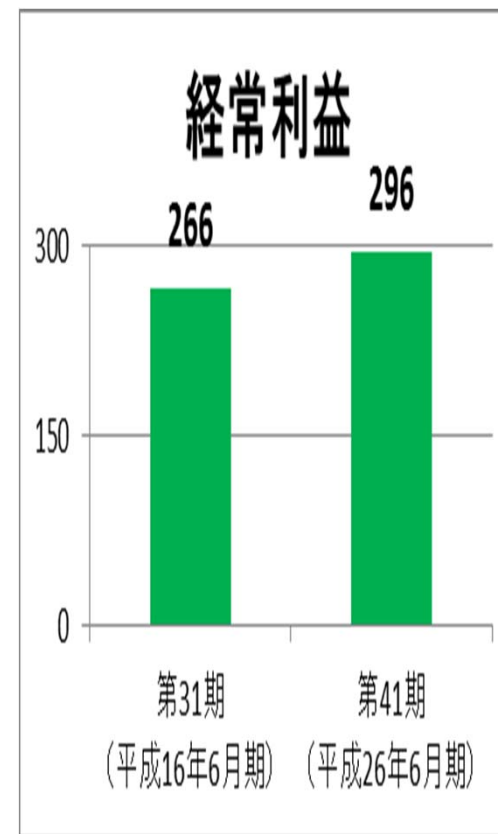
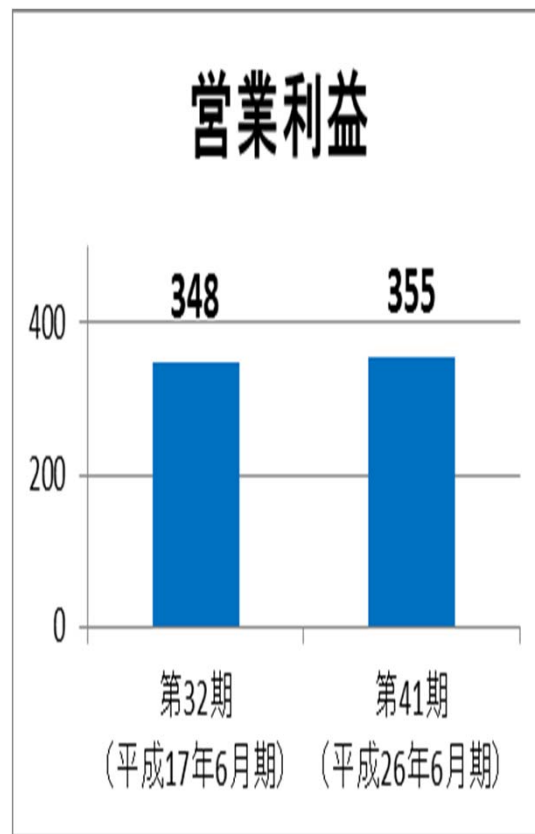
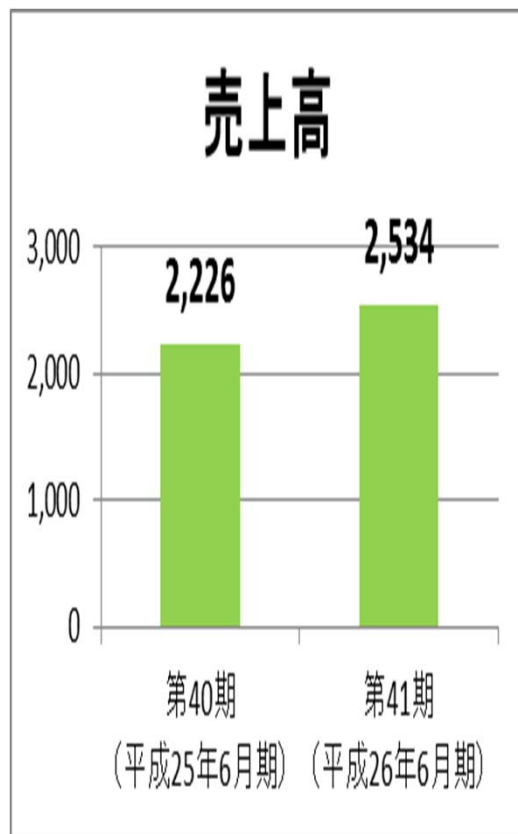


3. 業績について



【決算ハイライト】

・平成26年6月期の連結経営成績は
売上高、営業利益、経常利益が過去最高を更新しました。

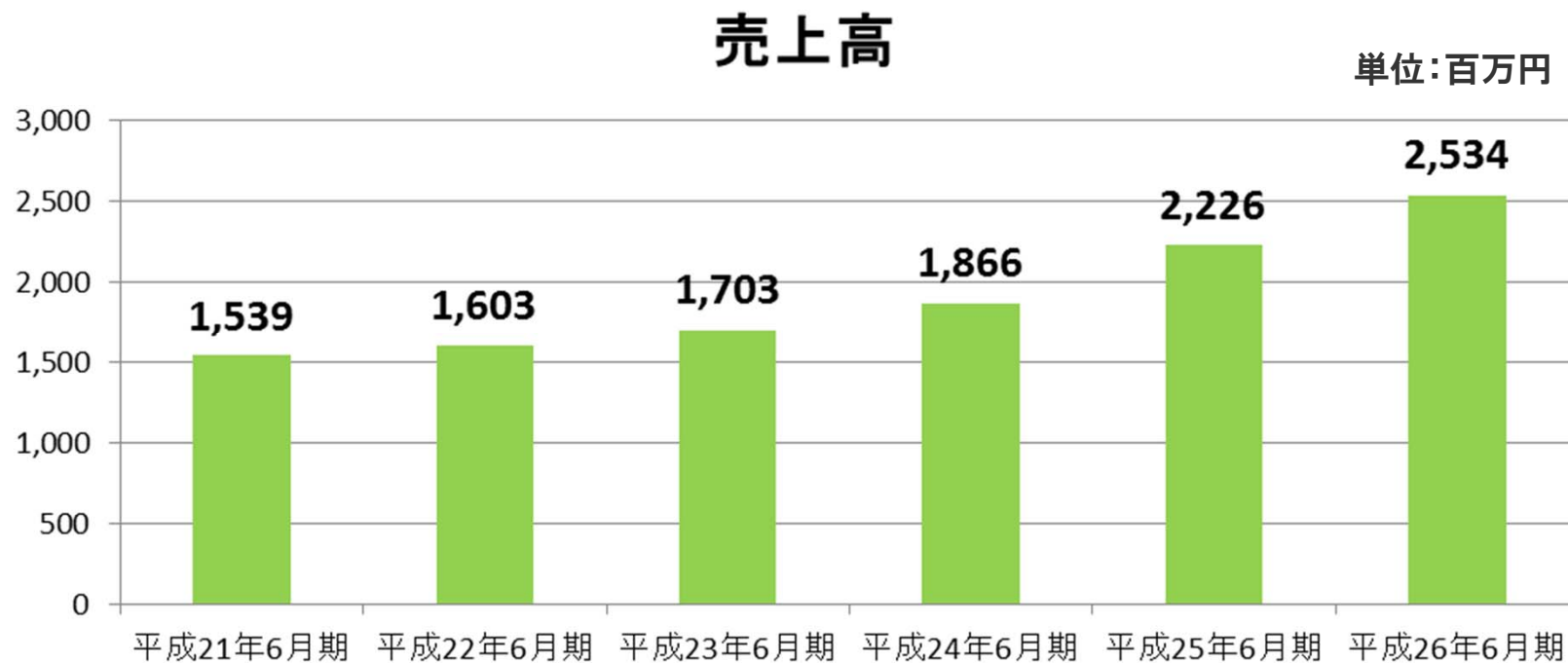


【決算ハイライト】

FUJIKOH

・売上高の増加 ⇒ 営業利益率14%(前期個別12.5%)

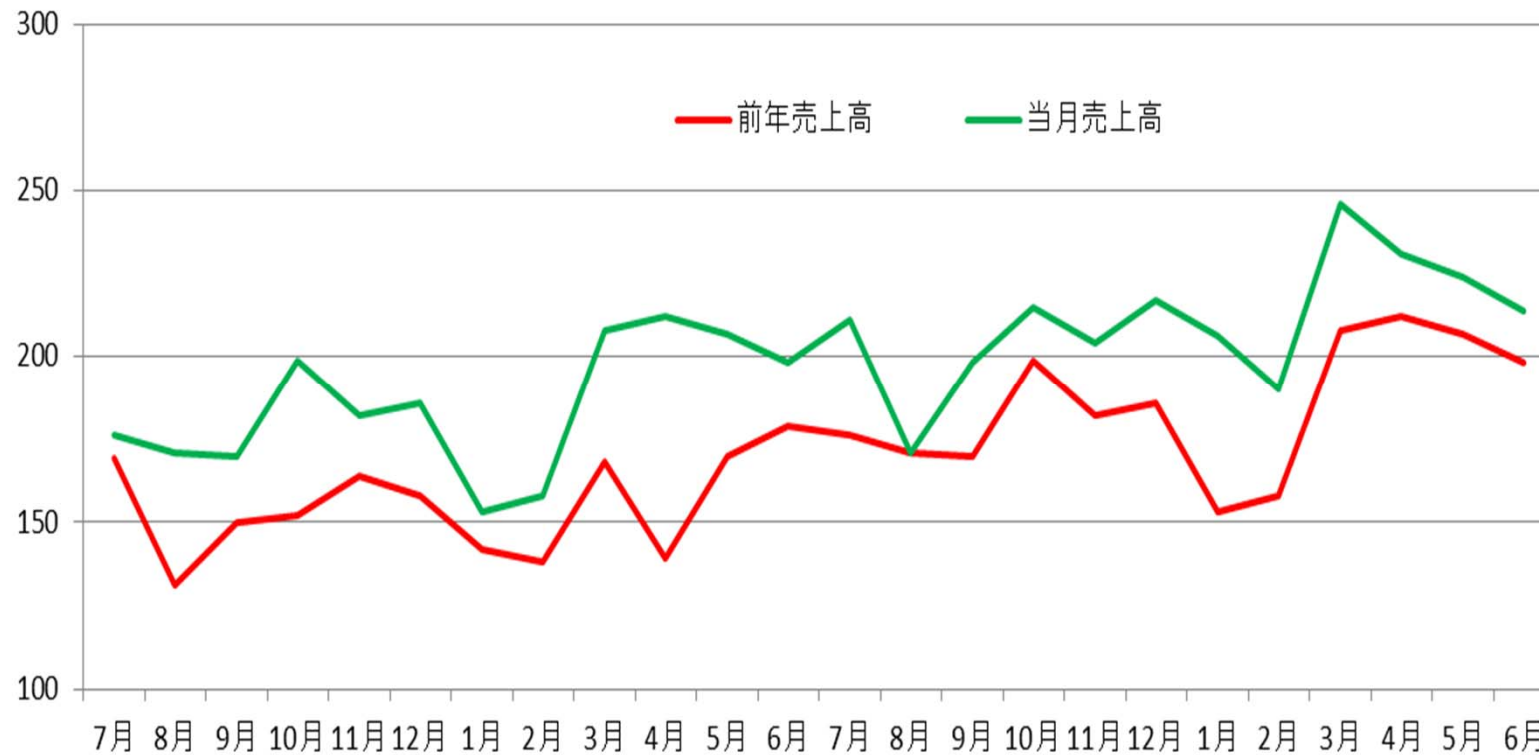
・売上高 5期連続増収 (15億円⇒25億円 1.64倍)



【決算ハイライト】

FUJIKOH

・月次売上高 ⇒ 前期に引き続き、前年同月を上回る



- ・消費税の改定に伴う新築住宅の駆け込み需要等

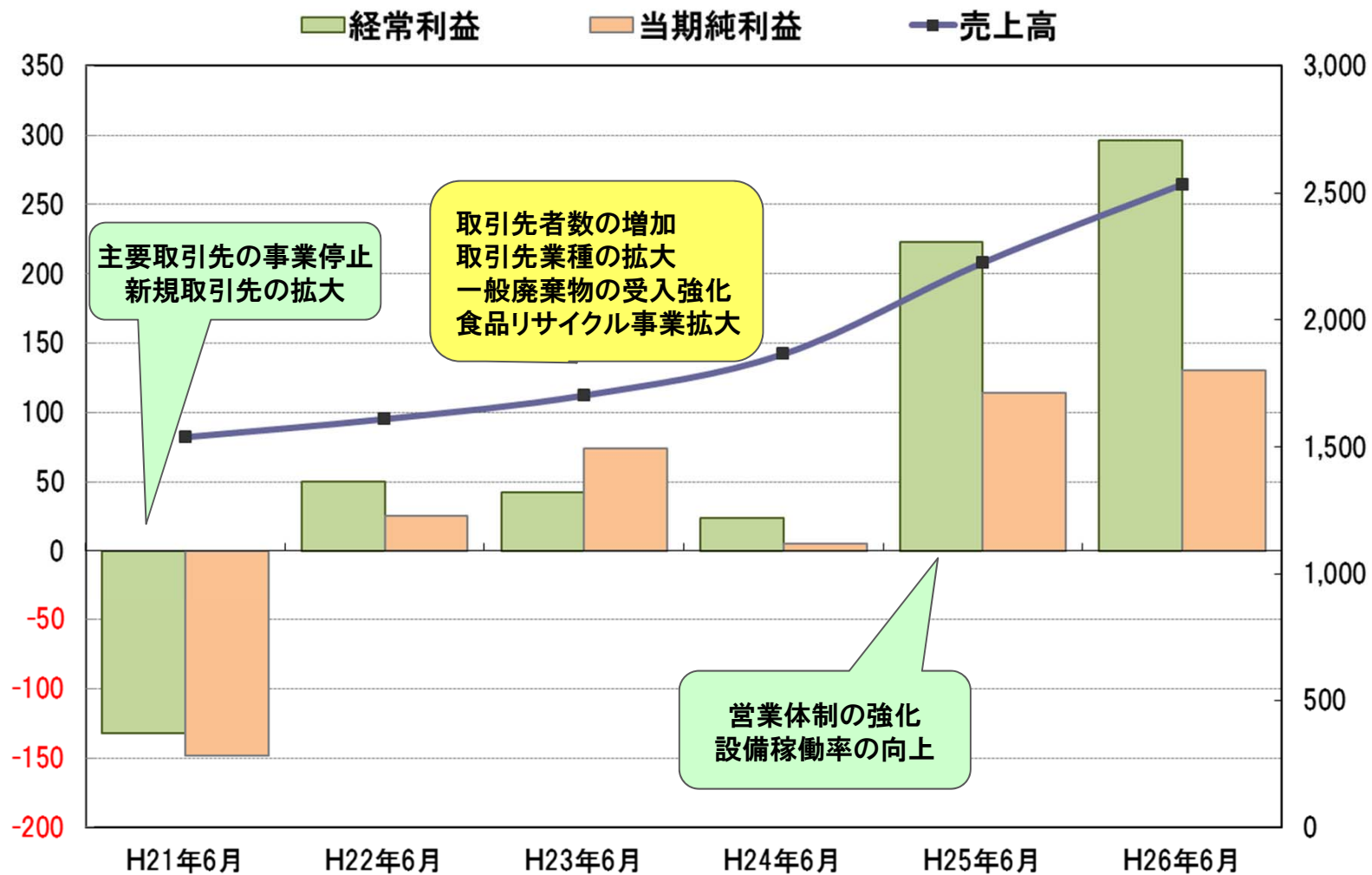
- ・建設系廃棄物の受入数量が増加傾向で推移
- ・第4四半期連結会計期間は一部受入制限を実施
- ・新規問い合わせを含め、処理需要が伸長



- これらの処理需要に対応するため、稼働率の向上に注力
- ・各施設 高い稼働率で運転を継続(場内作業の効率化)
 - ・受入平均単価も堅調に推移
 - ・円滑な受入体制の構築(営業部と受付の連携強化)

【決算ハイライト】

(単位: 百万円)

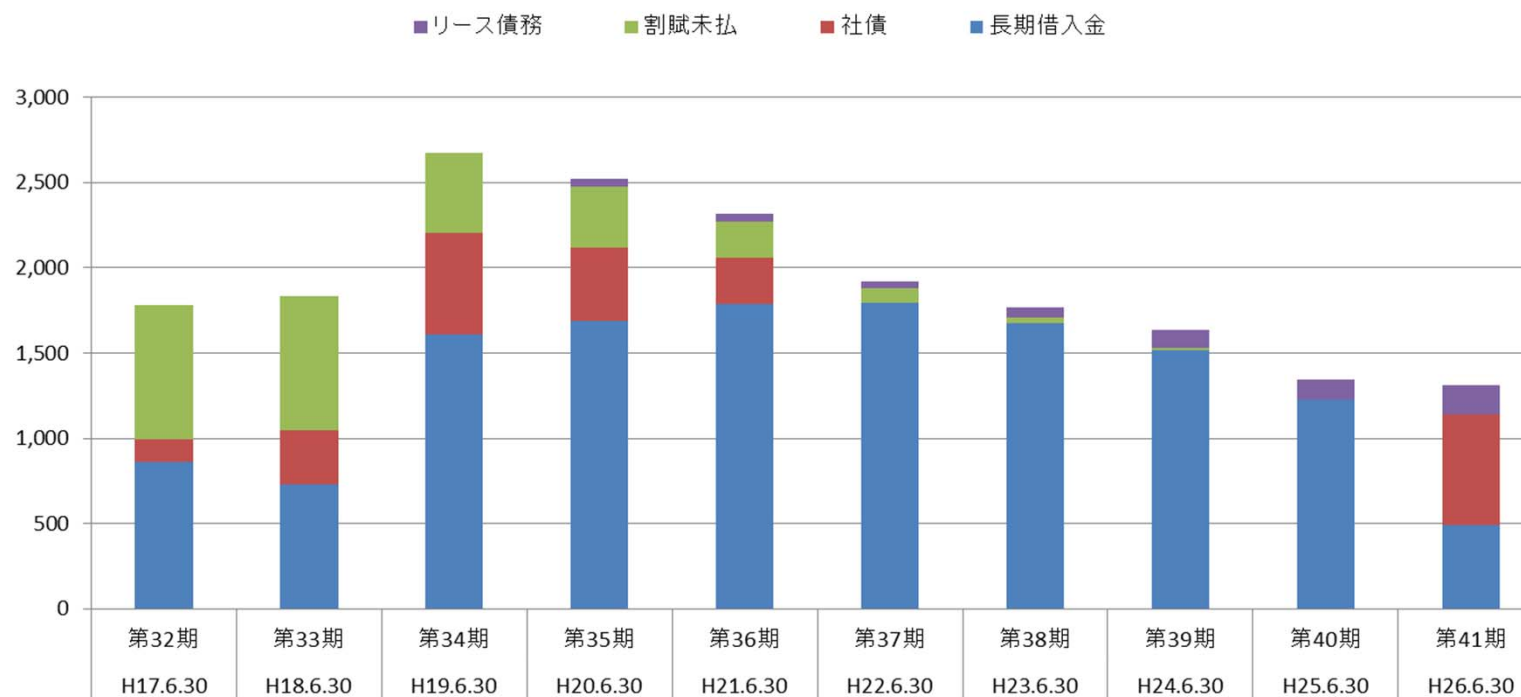


【有利子負債の状況】

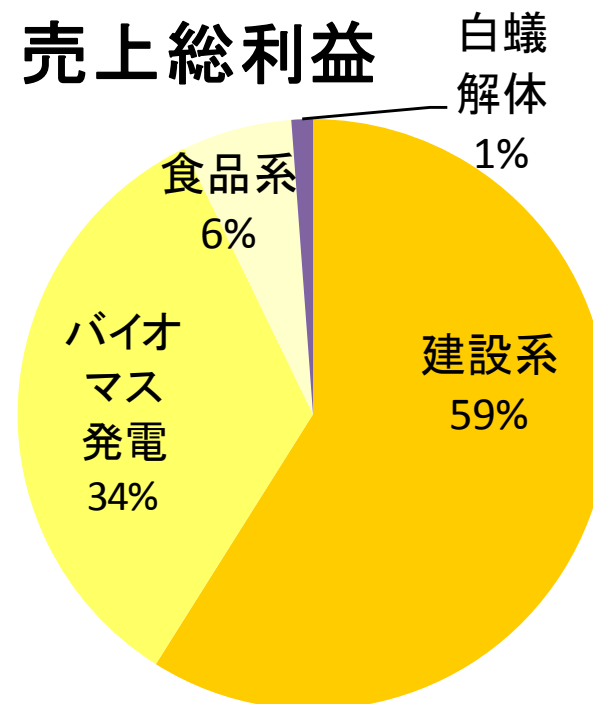
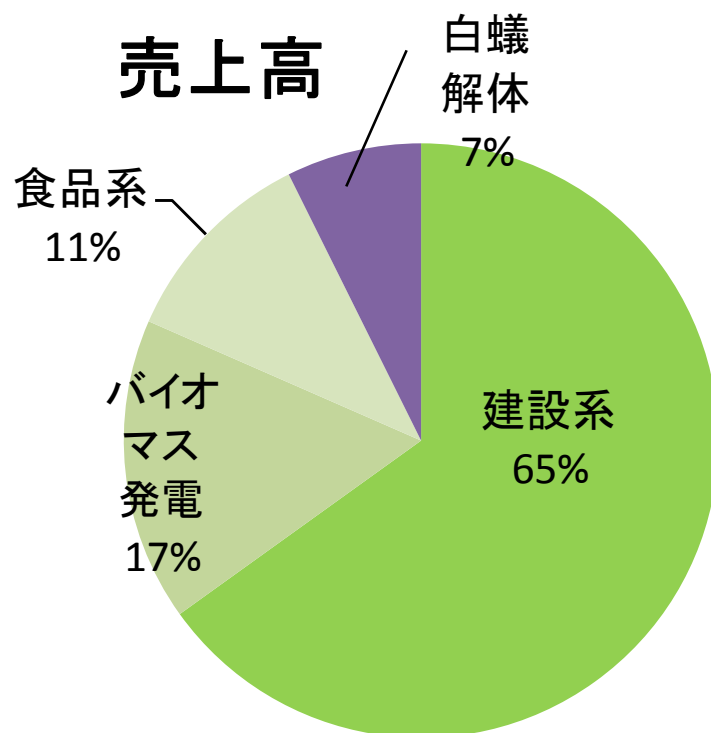
・平成25年9月 私募債の発行により既存借入金の一括返済

・リスケからの脱出 金融債務の正常化により今後の設備投資が可能

有利子負債の残高推移



平成26年6月期(2014年6月期)損益実績



【決算ハイライト】

FUJIKOH

2013年8月9日発表

(単位:百万円)	前期実績	当期予想	当期実績	予想増減	前期増減
売上高	2,226	2,313	2,534	221	308
営業利益	278	300	355	55	77
経常利益	223	280	296	16	73
当期純利益	114	140	130	-10	16
EPS (円)	36.58	44.00	38.56	-5.44	1.98

【決算ハイライト分析 計画比】

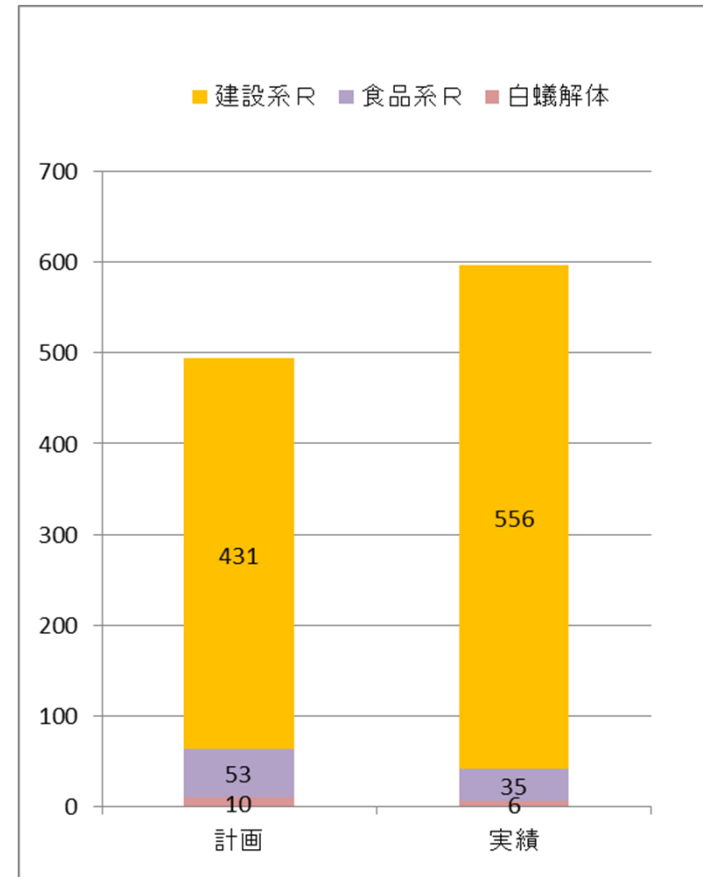


(単位:百万円)

売上高の比較



売上総利益の比較



4. バイオマス発電施設概要



【バイオマス発電施設】

FUJIKOH

営業運転開始 平成20年4月

廃棄物の活用による高収益発電

売電売上

+

廃棄物処理売上

- ・ 受入原料：木くず等のバイオマス、選定枝等の一般廃棄物
- ・ 処理能力：60t／日 年間18,000t
- ・ 発電能力：1,800キロワット／h 年間発電量13,000メガワット
- ・ 投資金額：1,950百万円

バイオマスの変換施設整備事業として

「バイオマスニッポン総合戦略」の策定により「地球温暖化の防止」「循環型社会の形成」を目指したバイオマス利活用の取り組みを推進する制度

【発電施設 外観及び内部】

FUJIKOH

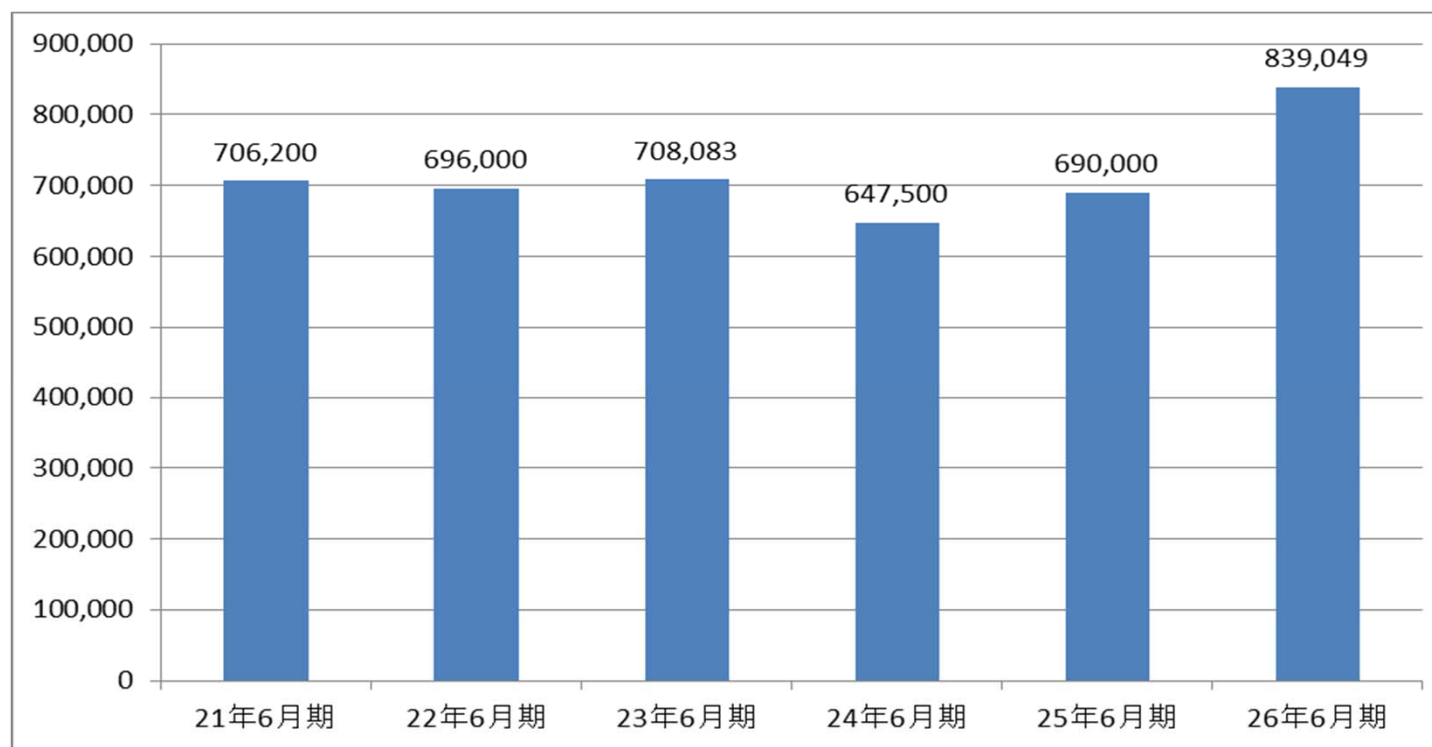


【発電数量及び売電数量の推移】

FUJIKOH

月平均売電数量

(単位: kWh)

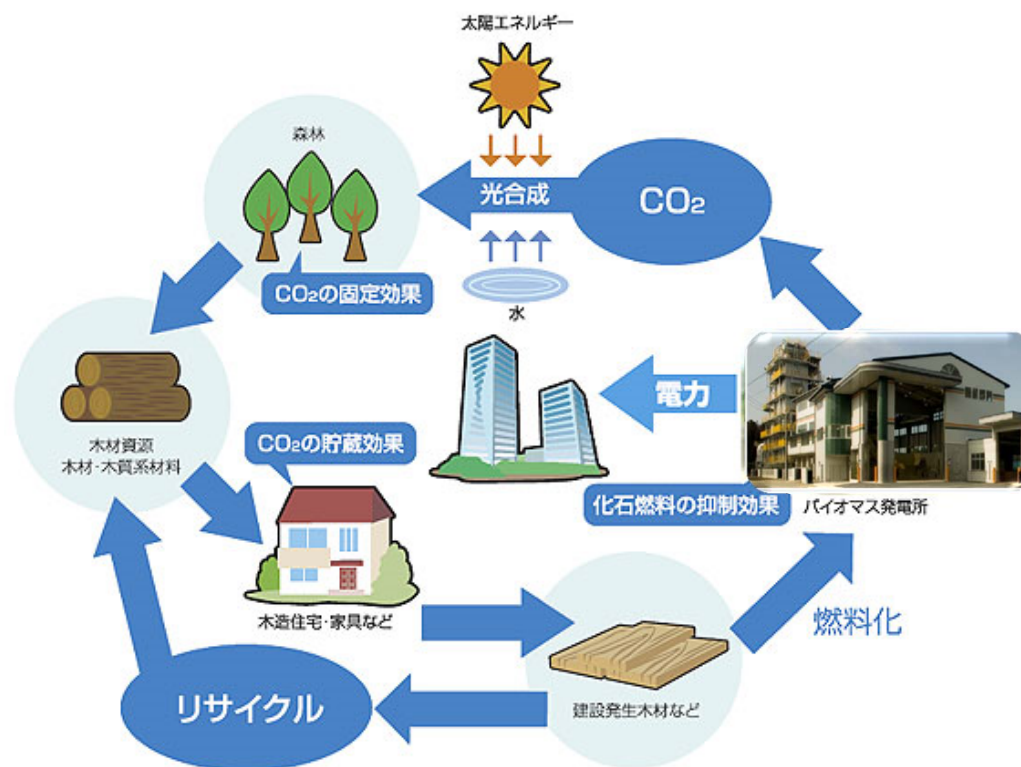


廃棄物をエネルギー源として発電を行うことにより、発生電力の売電収益に廃棄物処理の売上がプラスされるため、安定的な収益基盤の確立と投資コストの早期回収が実現可能。

【バイオマス発電の環境的意義】

バイオマス発電は、動植物に由来する有機物であって、エネルギー源として利用できるものを燃料とし、環境付加価値の高い新エネルギーを生み出しているものです。

フジコーが白井市において運営管理するバイオマス発電所は、建築現場から発生する木くずや街路樹、果樹園の選定枝を燃料として発電しております



フジコー白井発電所は
電気の**CO²係数ゼロ**
すなわち
CO²を一切排出しない
グリーン電力として
経済産業省から認定を受けています。

【CO² 排出量の削減】

FUJIKOH

年間発電総量 : 12,000MWh × 0.464トン = 5,568トン

- 1年間で約5,000トンのCO²の削減
- 東京ドーム450個分の杉林が1年間に
吸収するCO²量に相当

※CO²削減量は環境省地球環境局が平成24年11月6日に公表している平成23年度の電気事業者ごとの実排出係数を基に当社が算出しております。

森林のCO²吸収量については、(独)森林総合研究所が出している樹齢40年の杉のCO²吸収量2.3t/ha・年を基に当社が算出しております。

5. 今期の見通しと今後の取り組み



【平成27年6月期の業績見通し】

FUJIKOH

・売上高 2,422百万円(前期比 4.4%減)

・営業利益 360百万円(前期比 1.4%増)

・経常利益 310百万円(前期比 4.7%増)

・当期純利益 180百万円(前期比 38.5%増)

・利益配分

成長に応じた株主の皆様への利益還元が重要課題であると認識
現状は事業拡大に向けた設備投資に注力したいと考えております

・次期(平成27年6月期)の配当予想 1株当たり 8円

【今後の取り組み】

- ・既存事業の基盤強化
- ・業務提携 新規事業を含めた事業化への取り組み

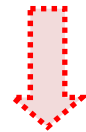
・中長期的な事業拡大への取り組み

バイオマス発電事業の拡大、電力小売事業への参入
飼料化事業の拡大

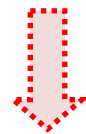
- ・間接、直接金融を含めた機動的な資金調達
- ・顧客基盤の拡大に向けた営業力の強化
- ・経営能力を備えるための人材教育

・森林資源を活用したバイオマス発電事業の着手

・建設廃棄物 食品廃棄物のリサイクル事業
・バイオマス発電事業 の実績と運営ノウハウ



・岩手県北部、秋田県、青森県内の豊富な森林資源を活用
・雇用の創出 地産地消のグリーン電力供給



・未利用資源の活用 環境負荷の軽減
・循環型経済社会の構築に貢献 地域経済の発展

・(株)エナリスとの合併による子会社及び孫会社の設立

名 称：株式会社一戸フォレストパワー

所在地：岩手県一戸町岩館

事業内容：森林木材による発電事業

(年間販売予定数量 43,164MWh)

雇用人数：11名 投資予定：20億4千万円

名 称：株式会社一戸森林資源

事業内容：燃料チップの製造販売

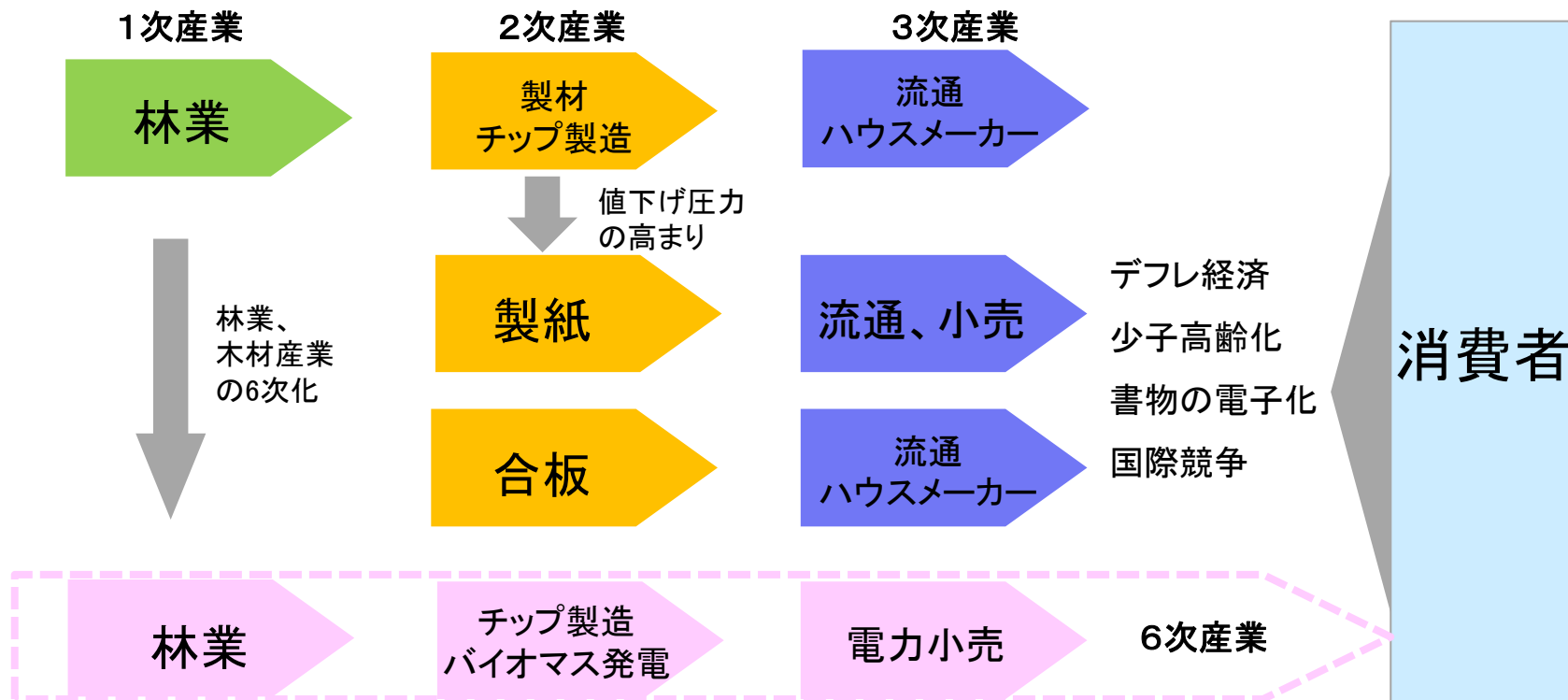
(年間販売予定数量 90,000トン)

雇用人数：14名

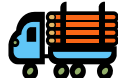
投資予定：8億円

【バイオマス発電事業のモデル】

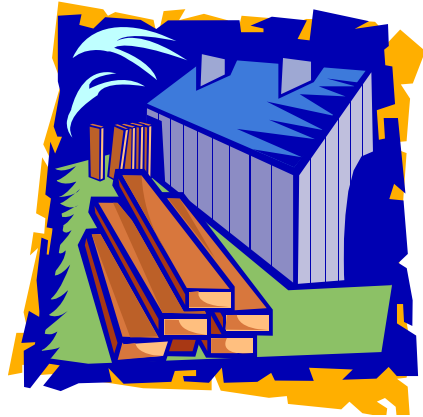
- 木材産業の6次化による、……「木材産業の収益向上」、「もうかる林業・製材業」
- 国産材の利用が促進され、……「山への資金還元」、「林業再生」
- 未利用材の有効利用と植林で、……「山の活性化」、「CO²の吸収」
- 木材産業の幅が広がることで、……「山間地域の雇用創出」、「地域経済の発展」
- バイオマス発電による、……「グリーン電力の創出」、「エネルギーの地産地消」



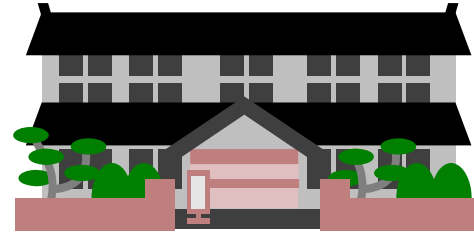
【バイオマス発電事業の概略】



半径50km圏内の山から、
C,D材や枝葉を切り出し、
A,B材と一緒に搬出



製材工場から発生する木くず

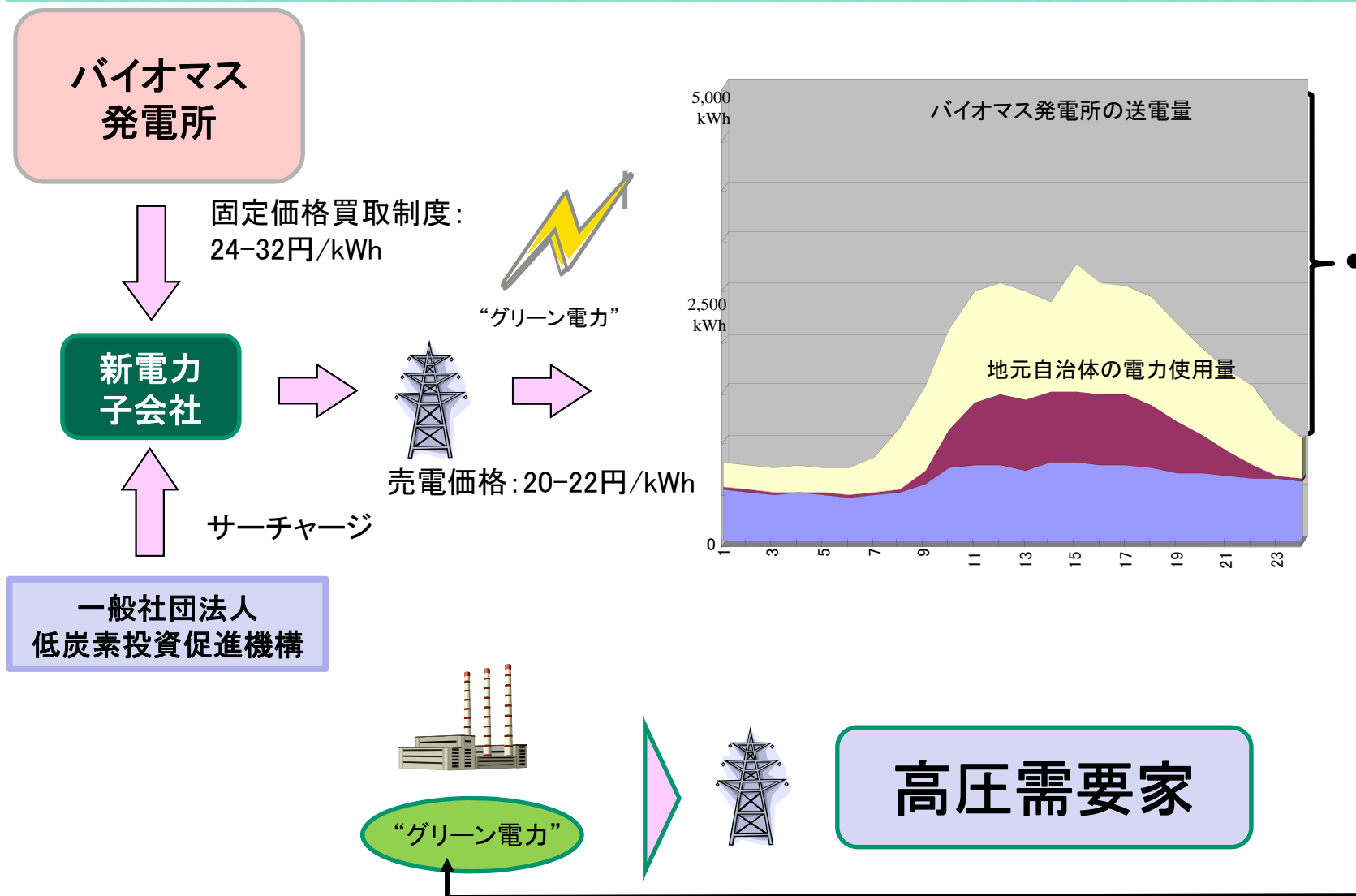


系統連系に接続、地域の公共施設に売電



バイオマス発電所で燃料として利用

【バイオマス発電事業のモデル】



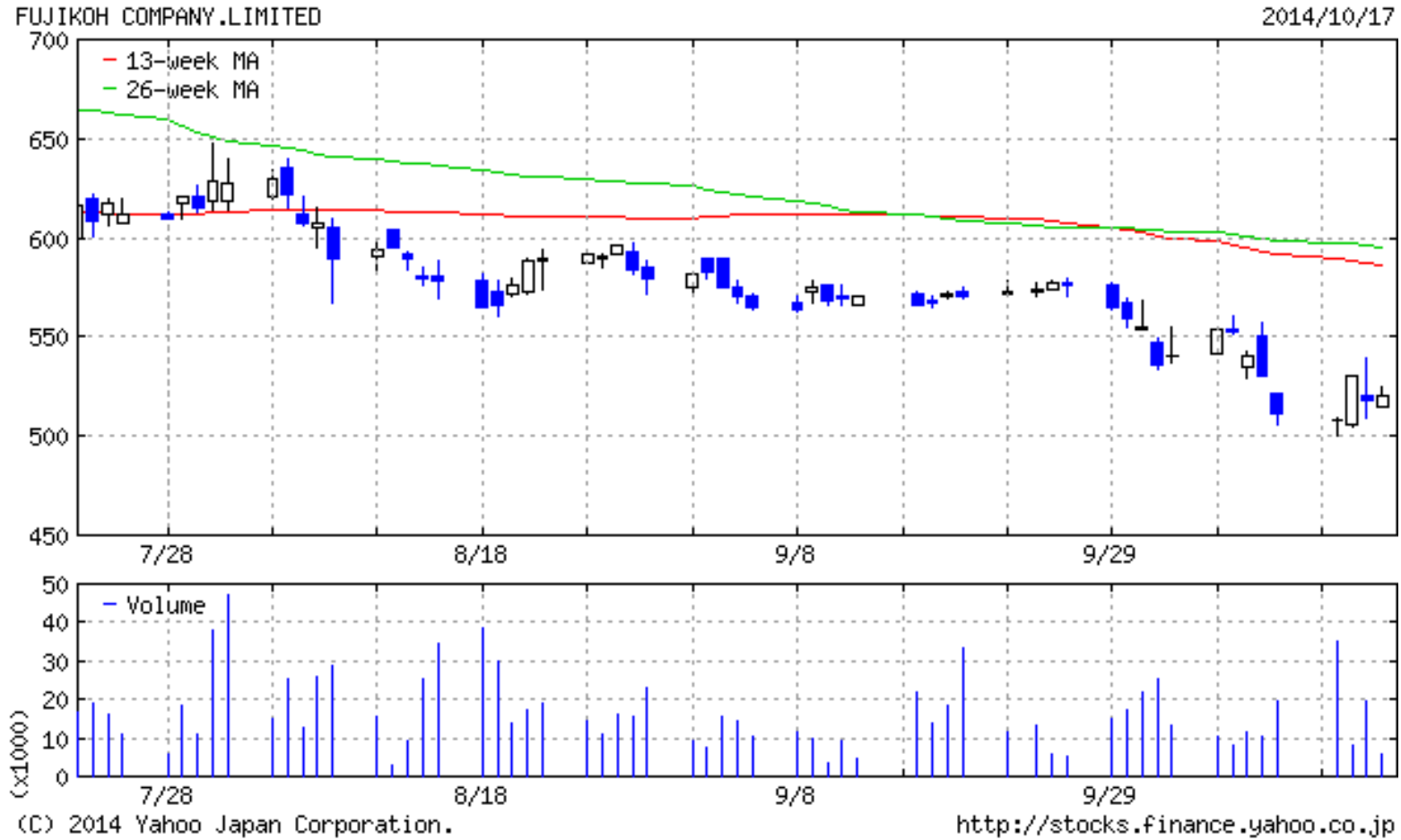
6. その他



【株価の推移】



・株価の推移 平成26年10月20日終値 535円



当社株主の皆様へ四半期毎の業績情報をお伝えするため フジコーレポートをお送りしております。

セグメント別概況

建設系リースサイクル事業

売上高151億円(前年同期四半期比16.2%)
売上総利益405百万円(前年同期四半期比25.3%)

建設系リースサイクル事業は、受入数量の増加に対応し、円滑な受入体制のもと、売上高は151億円(前年同期比16.2%)増、売上総利益は405百万円(前年同期比25.3%)増となり、前年同期比と比較して、前年同様に売上高も向上しております。前年同様に、売上高も向上しております。前年同様に、売上高も向上しております。

食品系リースサイクル事業

売上高201億円(前年同期四半期比32%)
売上総利益15百万円(前年同期四半期比45%)

食品系リースサイクル事業は、売上高は201億円(前年同期比32%)増、売上総利益は15百万円(前年同期比45%)増となり、前年同期比と比較して、前年同様に売上高も向上しております。

白蟻解体工事

白蟻解体工事 単体事業が、受入数量の増加に対応し、円滑な受入体制のもと、売上高は151億円(前年同期比16.2%)増、売上総利益は405百万円(前年同期比25.3%)増となり、前年同期比と比較して、前年同様に売上高も向上しております。

トビックス

トビックス 単体事業が、受入数量の増加に対応し、円滑な受入体制のもと、売上高は151億円(前年同期比16.2%)増、売上総利益は405百万円(前年同期比25.3%)増となり、前年同期比と比較して、前年同様に売上高も向上しております。

FUJIKOH REPORT

2014年5月31日号
Vol.6
第41期 第3四半期
(平成26年1月1日～3月31日)

代表取締役社長 小林 寛人

第3四半期の概況(右)を基に前半期を上回る、第3四半期の業績を振り返ります。第3四半期の業績は、売上高が前年同期比32%増、売上総利益が前年同期比45%増となり、前年同期比と比較して、前年同様に売上高も向上しております。

第3四半期の業績は、売上高が前年同期比32%増、売上総利益が前年同期比45%増となり、前年同期比と比較して、前年同様に売上高も向上しております。

区 分	第39期(平成24年第3四半期)		第40期(平成25年第3四半期)		第41期(平成26年第3四半期)	
	売上高 (百万円)	売上総利益 (百万円)	売上高 (百万円)	売上総利益 (百万円)	売上高 (百万円)	売上総利益 (百万円)
建設系リースサイクル事業	151	405	151	405	151	405
食品系リースサイクル事業	201	15	201	15	201	15
白蟻解体工事	108	108	108	108	108	108
トビックス	108	108	108	108	108	108
その他	108	108	108	108	108	108
合 計	668	636	668	636	668	636

【資料取扱上の注意】

FUJIKOH

本資料に記載されております当社の今後の業績に関する見通しおよび事業環境につきましては、現時点で入手可能な情報を基に当社が独自に予測したものであります。

そのため、当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因により、当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しを修正する可能性がありますので、見通しの達成を保証するものではありません。

【本資料・IRに関するお問い合わせ先】

株式会社フジコー

経営企画室 IR担当

清水 周二

TEL : 03-3841-5431 Fax : 03-3841-5371

mail : ir@fujikoh-net.co.jp